

本書の特徴と活用法

本書は、医師だけでなく、検査技師、診療放射線技師、看護師、リハビリセラピストなど、リウマチ診療に携わるすべてのメディカルスタッフを対象とした、関節エコーの実践的なガイドブックをめざして作成いたしました。当院のエコーチームがこれまでに蓄積してきた実践的ノウハウを、日常診療で活かせる形でまとめています。一部、専門的で難解な内容も含まれていますが、関節エコーの撮像基礎を学ぶ上で必須の『日本リウマチ学会 リウマチ診療のための関節エコー撮像の手引き 改訂版』（羊土社）と併用して、基礎的な内容は「手引き」で確認しつつ、より実践的な情報を本書で補いながら、一歩進んだ知識と技術を体系的に習得できるよう工夫して構成したつもりです。可能であれば、実際にエコープローブを手に取りながら本書を読み進めていただくことで、より理解が深まると思います。

本書は、3つの章で構成しています。文中に出てくる略語については、基本は初出時に正式名称を示し、以降は略語のみで表記しています。必要に応じて、略語集をご参照ください。また本書の作成にあたり、一部に文章表現の整理・校正補助としてChatGPTを利用しています。

第1章：関節エコーの現場

第1章では、北海道内科リウマチ科病院のエコー検査室で日常的に行っている関節エコーの「現場」に焦点を当てています。

当院の検査室での運用を踏まえ、実際の撮像において最適と考える条件設定、関節エコーの教科書では必ずしも十分に扱われていないものの、エコー装置の機能を最大限に引き出すための工夫、さらにGSやPDのグレーディングにとどまらず関節病変を多角的に理解できるよう配慮した当院のレポート記載例まで、明日からの診療に直結する内容をできるだけ取り上げました。

第2章：関節エコーにおける疾患別のスリーステップ

第2章では、関節エコーが映し出す疾患ごとの「顔」に迫ります。当院では、リウマチ性疾患における関節エコー所見の特徴を「スリーステップ」という考え方で整理しています。スリーステップとは、画像を単に観察するだけでなく、① 疾患ごとに炎症が生じやすい主な部位（炎症の中心）、② 疾患ごとに特徴的なエコーパターン、③ 疾患ごとに病変が好発する関節を体系的に整理することで、エコー画像から「その疾患らしさ」を捉えやすくするための枠組みです。

本章では「スリーステップ」に沿って、単にエコー画像の所見を確認するだけでなく、「なぜこの所見が現れるのか」「なぜこの部位を観察する必要があるのか」といった、エコー診断の根底にある「なぜ？」に対して、エビデンスに基づき、できるだけわかりやすく解説しています。さらに、コラムでは関節エコーが臨床現場でどのように力を発揮するのか、その実用性について一步踏み込んで紹介しています。

第3章：関節エコーにおける関節別のテクニカルスキルとQ & A

第3章は、関節エコーのテクニカルな側面に焦点を当てた「実践的ガイド」をめざしました。まず関節ごとに、当院で日常的に行っている観察・撮像の順序や撮像時のテクニックをできるだけわかりやすく言語化し、第2章で学んだ疾患の知識を踏まえながら、注目すべき撮像のポイントを整理し、当院の考え方を紹介しています。

さらに、実際に当院を見学された方々から寄せられた質問や、中級から上級をめざすソノグラファーが直面しやすい課題についても、経験豊富なスタッフが蓄積してきたノウハウに基づき、Q&A形式でできるだけ具体的に解説しています。具体的には、診断を妨げるアーチファクトへの対処法、正確に炎症を捉えるためのドブラ設定のコツ、描出が難しい関節をきれいに描くための工夫など、明日から現場で使える実践的なアプローチを紹介しています。

本書が、皆様のリウマチ診療の質を高め、関節エコーのスキルアップに大きく貢献できることを願っています。

2026年8月

北海道内科リウマチ科病院 検査課顧問
成田明宏